

令和2年度 学校評価【教職員・自己評価】

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	年間	総合	年度末の成果と課題
① 学校の組織的経営力の充実と向上	教務部	学校運営の円滑化	各種行事等における早期着手と各分掌・学年との連携	教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。	教務の計画を事前に示し、役割が明確に伝わる要項が提示できれば「3」、1ヶ月前に提示できれば「4」	3	3	B	①教務部会を定期的に行い、業務分担の確認を行ったが、行事の準備が滞り、日程変更での対応となったものがあった。もっと細やかな声かけ確認が必要だった。 ②備品チェックもスムーズに行えた。先生方の意見を取り入れながら、働きやすい環境を整備していきたい。
				備品・消耗品・周辺機器の整備をする。	必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障を来さなければ「3」、毎週の確認ができれば「4」	4	4		
	3年間を見通した教育活動の実践と校内研修の推進	生徒の進路目標や個の適正に応じた教育課程の研究・検証と職員の研修の推進を図る。	目標にあった特色ある教育課程を編成する。	年間計画通り教育課程委員会を開催し、現行の教育課程の問題点の改善や検証ができれば「3」、次年度の教育課程作成の着手できれば「4」	4	4	A	①令和4年度入学生用の教育課程のたたき台を作成できた。今後、細かいところをつめていきたい。 ②校内研修は計画的に実施できている。今年度から実施の授業改善にむけた職員研修も計画通りにできている。回数軽減や時程の見直しを行い、質の向上に努めていきたい。	
			校内研修の充実と積極的な参加を促す。	年度当初に年間計画が示せれば「3」、計画の8割が実施でき、かつ各々の研修への参加者が8割以上であれば「4」	4	4			
地域に根ざした学校づくりに努める。		広報活動を充実させ、地域や保護者との連携を図る。	「北松西高だより」の発行。	年8回発行すれば「3」、毎月発行すれば「4」	4	4	A	①北松西だよりは6月からA4版に変更し回数を増やすことができ、年間14回発行できた。カラープリンターが整備されたので、カラー刷りでの配布も検討していきたい。 ②ホームページは、リニューアルに伴い更新回数が激増した。年間121回更新した。あとはアクセス数の増加を目指して模索していきたい。	
			webページの定期的な更新。	月3回更新すれば「3」、月5回以上更新すれば「4」	4	4			
進路指導部		総合的な学習・探究の時間の充実	キャリア教育を柱とし、3カ年を見通した総合的な学習・探究の時間の運営と内容の研究	キャリア教育を柱とした総合的な学習・探究の時間の年間計画を立て、実施する。	学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」、生徒の状況を見て教員間で運営について話し合いながら円滑に実施できれば「4」	3	3	B	①予定通り実施できた。 ②今年度の反省を活かして来年度の「総合的な探究の時間」の計画を立てていきたい。

			今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。	各学年に活動の反省をしてもらい、成果と課題を明らかにできれば「3」、反省をもとに3年間の実施計画を再考し、次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「4」	3	3	
保健部	生徒及び教職員の健康の保持増進	生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。	定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。	受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。8割以上の提出があれば「3」、全員の提出があれば「4」	3	3	B
			健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。	計画どおり実施できれば「3」、受診後完治までの指導・支援ができれば「4」	3	4	
			健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行う。	毎月・臨時の情報提供を行なったら「3」、計画どおり発行出来れば「4」	4	4	
施設・設備の健康・安全対策	生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。	保健部・学校薬剤師による環境安全点検（校舎内外）、安全衛生点検〔年3回〕の実施	問題点があれば、速やかな対策を講じる。点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	
		掃除の徹底	清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	4	4		
保健部 / 相談	生徒の実態把握と支援や配慮等の確立	アンケート調査や面談を実施し、生徒の実態を把握する。また、支援や配慮の必要な生徒が、充実した学校生活を送れる環境の確立とスキルアップに努める。	生徒の実態把握	生徒への悩み調査や面談を実施し、生徒の困り感を把握するとともに関係職員と情報共有する。アンケートを実施して生徒の実態把握ができたなら「3」、それをもとにアンケートの改善ができたなら「4」	3	4	B
			支援や配慮を必要とする生徒の面談と対応策の検討	生徒との面談を実施し、困り感の把握と対応策を関係職員と検討する。面談が実施できたら「3」、対応策の実践ができたなら「4」	3	3	

①事後措置として、対象者へ受診勧告書を冬季休暇前に手渡しで個別に渡したところ、全員ではないが、受診率が多少増えた。来年度も実施していきたい。
②保健だよりを毎月かつ臨時発行できた。また保健室付近に高校保健ニュースを掲示し、情報発信もできた。

①安全点検の実施はできた。（3回目は後日実施予定）予算の関係上、今すぐに大きな改善ができるところは少ないため、できるところから改善していきたい。
②清掃用具の点検等にもっと力を入れて取り組む必要があったと思う。

①悩みアンケートを「学校楽しーと」というアンケートに変更し、悩みだけでなく自己肯定感などについても調査できる内容に改善し実施した。生徒同士の比較でなく、今までの自分自身との比較ができるシートになっているため、面談にも活かしやすいと考える。今後も分析をしていきたい。
③SSWとの連携はこまめに実施でき、不登校の生徒においても、一人で抱え込まずに対応できた。

			SSWとの連携と活用を充実させる。	スクールソーシャルワーカー（SSW）と連携して生徒の実態把握を行うとともに生活環境の改善と学校生活が充実できるよう支援する。SSWと連携できたら「3」、生活環境の改善ができれば「4」	3	3		
保健部 / 特別支援	特別支援教育の必要な生徒の実態把握と支援体制の確立	特別支援教育を必要とする生徒の実態把握を実施するとともに支援体制の確立に努める。また、教職員の特別支援教育に対する理解と意識の向上を図る。	特別支援教育を必要とする生徒の実態把握	生徒への実態調査又は面談を実施して困り感を把握するとともに、学年会や職員会議においても特別支援教育を必要とする生徒の実態を把握する。生徒の実態を把握ができれば「3」、悩みのある生徒の対応ができれば「4」	2	3	B	
			特別支援を必要とする生徒の個別の教育支援計画作成	該当生徒と保護者の面談を実施し、支援が必要な項目を担当とともに検討し、個別の支援計画を作成する。面談ができれば「3」、支援計画を作成できれば「4」	2	3		
第2学年	学年の協力体制を確立して指導し、教師・生徒間の信頼関係を築きあげる。	学年全体による指導体制を構築し、一人ひとりを大切にしている生徒指導と教育指導を推進する。	学年会の定期的実施と情報共有の充実	学年会を月に3回以上実施し、生徒や学年運営に関する情報を共有できれば「3」、かつ学年運営を円滑に行うことができれば「4」	4	4	A	
			共通認識を持ち、一貫性のある指導体制の構築	悩みや問題を抱える生徒については、学年団、管理職、相談部等学校全体で情報を共有し、学年団を中心に支援・指導を行う。この流れができていれば「3」、これに加え管理職、他学年にも共有し、学校全体での指導体制が構築できれば「4」	4	4		
② 多様な教育活動に	事務室	学校の窓口としての適切な対応	外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。	適切な来客・電話対応	挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内を行うなど標準的な対応ができれば「3」、より迅速かつ正確な対応ができれば「4」	4	4	B
				職員室との連携と適切な対応	内部の接点として職員室との連携を意識した対応ができれば「3」、関係する業務等については、より共通理解を深められれば「4」	3	3	

今年度もSSW石橋先生に來校していただき、精神的に落ち着いた学校生活ができている生徒もおりありがたかった。全職員で生徒を多面的に観察し、困り感の早期発見と早期対応をさらに進める必要がある。また、生徒の負担軽減を実現するための方策や行事の見直しをする必要がある。

①2学期以降、進路・友人関係・学校の活動等で悩みや不安を大きくした生徒が出てきた。適宜学年会や関係する先生方と情報共有を行っている。特に進路に関しては、これからさらに増える可能性もある。
②日頃から生徒の観察を怠らず、先生方との情報の共有を徹底していく。

①1の来客・電話対応及び3の情報管理については適切に実施できた。
②2の職員室との連携については、今後はより先生方と共通理解を深められるよう努めたい。

対応した学校事務の推進			適切な情報の管理	外部・内部の接点としての事務室の情報管理が、適切に行われていれば「4」	4	4	
	適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。	適正な会計処理。 予算の効果的執行。	規則等を遵守し適正で迅速な会計処理ができれば「4」 先生方、生徒の要望等にきちんと対応しながら、予算の効果的・効率的執行を達成できれば「4」	4	3	B ①適正かつ迅速な会計処理については一部書類の不備や遅延が見られたため、より適切な処理を心がけたい。 ②予算の執行については一部執行が遅れた事例があったため、次年度は早期に効果的執行ができるよう努めたい。
	施設・設備の安全管理及び整備・充実	より効果的な施設・設備の安全管理およびより適正な施設・設備の整備に努め、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。	校内巡視による実態把握。 突発的な破損・故障への迅速な対応。 整備計画の策定。	校内巡視による安全確認ができていれば「3」、不良箇所等について高額な箇所については県に予算要求を行う等、早急に対応できれば「4」 直ちに現場を確認し、迅速に対応すれば「4」 長・短期的視点からの効果的な校舎等整備計画を策定できれば「4」	3	3	
③ 学力の充実と向上	進路指導部	学力の向上 計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。	自主学習力を育てる。 模擬試験・実力テストを有効に利用する。	家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。学習時間の記録において、1,2年平均180分、3年平均240分を50%の生徒が達成できれば「3」、70%の生徒が達成できれば「4」 模擬試験・実力テストを計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。1,2年1月対外模試において、偏差値平均52以上、60以上1名、3年2学期対外模試において偏差値平均48以上、58以上1名が達成できれば「3」。また、1,2年1月対外模試において、偏差値平均55以上、60以上2名、3年2学期対外模試において、偏差値平均50以上、60以上1名が達成できれば「4」	3	4	C ①9～12月平均の学習時間目標達成人数は1年9名、2年10名、3年10名で全体で73%であった。今後は学習の質の向上を意識した指導を行う必要がある。 ②11月の対外模試では1年α希望者偏差値平均50.9、60以上が1名。2年αは偏差値平均56.7、60以上が2名。3年α偏差値平均文系51.8・理系45.7、58以上0名であった。授業や課題内容を見直し、学力向上のために工夫が必要である。

第1学年	学力の向上と進路指導の充実	基礎学力を身につけるとともに、面談・進路学習を充実させ、各個人が自分の進路目標を定め、主体的に動けるようになる。	家庭学習を習慣化させる。	平日120分以上、休日330分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の調査・点検を毎日行い、週平均学習時間合計が1260分以上の生徒が60%いれば「3」、70%いれば「4」	4	4	B	①今後は個別に学習の方向性を細かく決めさせ、学習の質を高めさせたい。生活手帳の確認は週2回に変更したが問題はなかった。 ②徐々に希望の進路が具体化してきているので、模試や定期考査の点数など、目標をより具体的に示せるようにしたい。 ③オープンキャンパス情報や進路関連の書籍などの紹介を行った。今後は入試関連の情報も提供したい。
			面談を充実させる。	個人面談を学期毎に1回、家庭訪問または三者面談を年間で2回実施する。予定通り実施すれば「3」、個人面談を学期毎に2回実施すれば「4」	3	3		
			進路選択に向けての意識啓発を行う。	S H RやL H R、学級通信などで、進路に関する情報を発信する。学期毎に3回実施できたら「3」、4回実施できたら「4」	3	3		
第2学年	個に応じた学力の充実	自主的に学ぶ姿勢を確立させる学習指導を通して、各人の進路実現につなげる。	家庭学習の習慣化	1日180分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の調査・点検を毎日行い、適宜声かけを行う。週平均学習時間合計が1260分以上の者が80%以上あれば「3」、90%以上あれば「4」	4	4	B	①2学期以降やや学習時間が減っている者もいるが、目標時間は全員達成している。今後は教科の学習以外に、各自の進路に必要な知識を読書等で増やしていく指導を行いたい。 ②学級通信は8号まで発行した。
			学習に対する意識啓発・家庭との情報共有を行う。	学級（学年）通信を毎月発行し、そこに進路に向けてのメッセージ、項目を必ず載せる。予定通り発行できたら「3」、増刊号含め14号まで発行できたら「4」	3	3		
第3学年	学力の充実と進路指導の徹底	進路目標を明確にさせ、学力向上と学校生活の充実を図る。	家庭学習の指導	1ヶ月の学習時間の平均が1日210分以上（部活動引退後は300分以上）の者が全体の50%いれば「3」、60%以上あれば「4」	3	3	B	①210分を上回ることはほぼ全員達成できたが、300分を上回る生徒は7月～9月では60%、10月以降では20%程度であった。夏季休暇などは時間があり、βの生徒も試験前で学習時間を確保できていたが、10月以降は進路が確定した生徒も増え始め、学習時間が増えない生徒もいた。 ②ロッカーなどの整理が不十分な生徒が数名いた。 ③就職試験や推薦などの指導を学年団で分担して行うことができた。
			学習環境の整備	1ヶ月の学習時間の平均が1日210分以上（部活動引退後は300分以上）の者が全体の50%いれば「3」、60%以上あれば「4」	3	3		
			個に応じた学習指導の充実	個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の8割以上が判断できれば「3」、9割以上が判断できれば「4」	3	4		

国語科	学力向上の為の学習指導法の研究	進路実現の為に必要な学力向上の為に、効果的な学習指導法の研究を行い、実践する。	授業計画について検討し、情報交換をする。	教科担当者間で情報交換を行い、学力面での課題を確認し、効果的な指導につなげる。月に2回以上実施できれば「3」、月に4回以上実施できれば「4」	3	3	B	<p>①実施できた。次年度の担当者にスムーズに引き継ぎができるよう、情報をまとめていきたい。</p> <p>②実施できた。10月に関しては、指導案検討や授業研究なども行った。</p> <p>③前期に行ったものを引き続き行った。また、自分でテストを作成させるなど、課題の形式も新しいものを取り入れた。今後も生徒の学力を高めるため、課題内容を改善していきたい。</p>
			授業参観をして意見交換を行うことで、指導力を向上させる。	授業参観を通して自身の授業実践に活かす。年に2回以上実施できれば「3」、年に3回以上実施できれば「4」	-	3		
			個に応じた指導を実践する。	生徒の志望・学力に応じた指導を行う。具体的な方策を2つ以上実施できれば「3」、具体的な方策を3つ以上実施できれば「4」	4	4		
生徒の読書習慣の向上への取り組みの実施	読書推進活動の実施等を通して、生徒が自身の世界観を広げ、社会全般に関する教養を得るために必要な読書習慣を身に付けさせることを目指す。	授業でブックトーク等を実施する。	各学年の授業においてブックトークやビブリオバトルといった読書への意欲向上、読書習慣の定着につながる実践を行う。学期に1回以上実施できれば「3」、学期に2回以上実施できれば「4」	3	3	B	<p>①現代文だけでなく、古典作品のブックトークも行った。今後は、図書だよりの紹介に力を入れたり、図書館で授業をする機会を増やしたりしていきたい。</p> <p>②実施できたが、朝読の回数が減っていることをふまえて、朝読の在り方について考え直していく必要がある。</p> <p>③実施できたが、知識の定着に至らない生徒も多いため、効果的な実施方法を検討していきたい。</p>	
		朝読を活用した読書推進活動を実施する。	朝読で読む本のジャンルを指定する等、読書に対する視野を広げる活動を、朝読を活用して行う。年に2回以上実施できれば「3」、生徒へのアンケートで生徒の読書習慣が半分以上の生徒に見られれば「4」	3	3			
		語彙力を養成する。	小テストを通して、読書をする上で必要な生徒の語彙力を向上させる。小テストを週1回以上実施できれば「3」、小テストを週2回以上実施できれば「4」	4	4			
地歴科	知識の定着と思考力の育成	歴史の展開を資料に基づき総合的に考察させ、歴史的思考力を育成するとともに、郷土を愛する心を養う。	知識の定着をはかるため、課題の取組を徹底させる。	定期考査の訂正、長期休業等における課題の取組みにおいて課題の提出・合格90%以上で「3」、95%以上で「4」	4	4	A	<p>①課題の提出・取組みは前期に引き続いて良好である。</p> <p>②授業では難関大・共通テスト（試行調査）を用いながら、資料読解・論述力を身につけることができた。</p>
			思考力・表現力育成のための論述問題作成	定期考査において資料読解・論述問題を入れることができれば「3」、授業でも実施できれば「4」	4	4		

			地域の伝統・文化に関する深い理解を養う。	小値賀・長崎県に関する事項を授業に3回以上取り上げることができれば「3」、5回以上できれば「4」	4	4		③小値賀・長崎に関する事項については、2年生は前方湾海底の陶磁器（中世）、3年生は長崎と原爆（近代）で取り上げた。
公民科	NIE教育の推進	NIEの実践を行い、新聞を読むことに慣れ、現代社会について考えさせる。	新聞記事を読解する課題を実施	長期休業中の課題として新聞読解を主とした課題に取り組ませる。（3β、2年生）予定通り全長期休業中に課すことができれば「3」、さらに生徒の取組が良好ならば「4」	4	4	A	①新聞読解の課題は夏季・冬季休業中に実施した。取組みは良好である。記事の内容はSDGsの内容を意識して選択した。自分の考えを述べる力については感じている。 ②時事問題を授業で扱う際に、新聞・ニュースの画像・最新のグラフ等を提示・読解活動を行うことができた。
			新聞記事を利用した授業を行う。	各学期1回以上実施することができれば「3」、3回以上実施することができれば「4」	-	4		
数学科	基礎基本の徹底および応用力の育成	進路実現のために必要な学力を身につける。	模試を有効に利用する。	1,2年1月対外模試において、全国偏差値平均55以上、60以上1名、3年2学期対外模試において、全国偏差値平均50以上、60以上1名が平均が達成できれば「3」、60以上の育成ができれば「4」	2	2	C	①1月進研の校内採点において、1年は全国偏差値平均52くらい、60以上0名、2年は全国偏差値平均51くらい、60以上1名であった。3年10月進研記述において、全国偏差値平均48.2、60以上0名であった。目標値が見えるところまでできたが、及ばなかった。今後粘り強く指導していきたい。 ②計画的に授業、課題、小テスト等を行った。
			長期的な視野のもと年間計画を立て、実行する。	学力向上のための年間計画をたて、実行できれば「3」、発展できれば「4」	2	4		
	自主学習力を育てる。	家庭学習の充実を通して自主学習力を育てる。	就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。	9割の生徒が取り組んだら「3」、全員取り組んだら「4」	3	3	B	①模試の過去問等を課題にするなどして、生徒の学習意欲向上を図った。 ②生徒は毎日の課題を確実にこなすなど、家庭学習習慣はついている。さらに、質の向上を目指したい。
			生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。	9割の生徒が取り組んだら「3」、全員取り組んだら「4」	3	3		

理科	生徒一人ひとりの学習のつまずきを究明し、学習指導法の工夫・改善と授業の充実に努める。	生徒一人ひとりの学習のつまずきを究明するため、個に応じた指導を行う。学習指導法の工夫・改善を行い、授業をより充実させる。	生徒の実情に合わせた適切な課題を与える。	提出された課題や授業中の小テスト等の内容を元に、生徒一人ひとりの理解度を把握し指導に活かす。課題消化率および理解度が8割以上なら「4」、課題消化率および理解度が7割以上なら「3」	4	4	A	①課題提出も良好で、内容の定着に向けて習熟度に合わせた課題を課すことができた。 ②実験器具を購入していただき、できる範囲で生徒実験を行うことができた。
			実験観察を積極的に行う。	効果的に実験を実施し、生徒の興味・関心を喚起し、学習内容の理解を高める。教科全体平均で1回実施できたら「3」、2回以上実施できたら「4」	3	4		
保健体育科	授業や体育的行事において、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。	集団行動を定着させ、各領域で意欲的な活動を行う。	生徒が積極的に集団行動に取り組む。	体育委員を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。学校生活で実践できれば「3」、学校外でも実践できれば「4」	3	4	B	①中高合同体育祭では、それぞれの生徒が意欲的に責任をもって取り組み、集団のまとまりが見られた。 ②生涯スポーツを見通した授業作りにおいては、生徒一人一人は意欲的に活動ができていますが、グループ学習やチーム練習を主体的に行える更なる工夫が必要である。
			生涯スポーツを見通した授業づくり	各領域において基礎基本を身につけ、グループで計画的に練習に取り組んでいるか。実践できれば「3」、何らかの向上を80%以上の生徒が実感できれば「4」	3	3		
			中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。	中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。町へのアピールはどうか。成功へ導くことができれば「3」、達成感を80%以上の生徒が実感できれば「4」	3	3		
新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。	新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。	新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。	新体力テストを5月までに実施し、結果の分析をさせる。計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	①授業の初めのサーキット運動は継続して実施し定着できた。 ②長座体前屈の定期的な測定は、途中からストレッチテスト（7種目）を学期に1回実施するように変更をした。今後は、小中高一貫して生徒の意識が上がる方法の工夫が必要である。	
			柔軟性の定期測定	長座体前屈測定又はストレッチテストを2ヶ月に一回実施する。計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3			3
			個々の状況に応じた体力の向上	休校期間は自宅で、授業時には、サーキット運動を継続して実施する。（15分）計画どおり実施したら「3」、達成感を80%以上の生徒が実感できれば「4」	3			3

芸術科	基礎的な表現力の定着	音楽の基礎的な力をつけ表現力の向上を目指す。	表現力を高める指導を行う。	個別の実技指導が月に1回以上実施できれば「3」、それ以上なら「4」	3	4	B	①本校の強みを活かし、コロナウイルス感染症予防に配慮しながら実施することができた。次年度以降も継続して指導を行い、一人一人の表現力の育成を目指したい。 ②音感と読譜力が着実につき、効果が表れているので来年度以降も継続して指導を取り入れていく。
			音感と読譜力を高める指導を行う。	1ヶ月に3回指導ができれば「3」、それ以上なら「4」	4	3		
共同的な学びの実現	学びの場として、お互いに教えあったり批評することができる雰囲気・関係性を築く。	少人数・小集団での活動の実践	グループによる活動を取り入れ、生徒同士の学びあう時間を年間で5回計画・実施できれば「3」、それ以上なら「4」	-	4	B	①コロナウイルス感染症予防に配慮しながら生徒同士の学び合う時間を積極的に入れるよう心がけた。教師の期待以上の効果が得られることも多かったので、次年度も状況を確認しながら積極的に取り入れていきたい。 ②西高祭やクリスマス会、実技試験など様々な場面で互いに聞き合う場を設定できた。	
		「聴き合う」場の設定	演奏発表の機会を設定し、互いに聴き合い、相互評価を学期に1度以上実施できれば「3」、それ以上なら「4」	3	3			
生徒の主体的・創造的な音楽表現力の育成	生徒に芸術を身近に感じさせ、主体的・創造的な表現能力の育成を目指す。	様々な種類の音楽に触れる機会を設ける。	学期中に1回以上鑑賞の時間を設けられたら「3」、さらに鑑賞の内容と表現活動と関連付けることができれば「4」	3	4	B	①鑑賞の授業を通して、生徒の様々な「音楽に対する興味関心」や「音楽に対する感覚」を高めることができた。全ての授業で鑑賞の授業を表現活動に関連付けられなかったので来年度に活かしたい。 ②音楽的要素を用いた説明は十分できたとはいえなかったので来年度の反省としたい。	
		表現の工夫について、音楽的要素を用いて説明させる機会を設ける。	表現の工夫について意見を述べる時間が学期中に1度以上あれば「3」、さらに全員が説明時に音楽的要素を用いることができれば「4」	3	3			
英語科	基礎学力の定着	英語に関する基本的な知識の習得	予習・復習の徹底	授業時に予習や復習の確認を行う。7割の生徒が予習や復習を行ってれば「3」、9割の生徒が予習や復習を行ってれば「4」	4	4	B	①ほとんど全ての生徒が予習を行い、授業に臨むことができた。 ②定期・実力考査や各種模試後の訂正にしっかり取り組ませることができた。課題として提出することを求めずとも、自主的に復習に取り組む自身の学力向上に努める姿勢を育成する
			各種テストのやり直しノートの提出	確実に提出させる。9割以上の生徒が毎回確実に提出したら「3」、全員毎回確実に提出したら「4」	4	4		

			小テストへの取組	毎時間合格に向けて努力することで、基礎力をつける。合格する、または不合格でもやり直しを提出する生徒が9割を超えれば「3」、全員合格したら「4」	3	3		ことが課題である。 ③基礎力向上に向けて、小テストに熱心に取り組むことができていた。
学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導方法の工夫と改善に努める。	授業力向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場を増やす。	生徒が英語を使って話す機会の増加	CAN-DOリストにある学年ごとの目標に照らし合わせて、全てのクラスで定期的にスピーキング活動(スピーチ、インタビュー、リテリングなど)を取り入れる。年間1回パフォーマンステストを実施できたら「3」、年間2回以上実施できたら「4」	-	3	B	①1月に全学年生徒を対象にインタビューテストを実施することができた。 ②ALTを中心にスピーキング活動を設定し、生徒が授業中に積極的に話そうとする雰囲気作りができた。 ③7月・10月実施分の英語検定合格者合計は、3級4名、準2級5名、2級7名であった。今後も、各生徒が英語検定合格を目標の一つとし、英語の学習に積極的に取り組むように促したい。	
			ALTとのTTにより英語に触れあう機会を増やす。	TT授業を週に1回以上実施し、かつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」、2分の1以上あれば「4」	3			3
			英語検定合格を目指す	週課題や夏季補習などを利用して、英語検定1次試験対策を十分に行う。また、1次試験合格者に対して、昼休み等を利用して、個別に面接試験を行う。1人あたり2回以上練習を行うことができれば「3」。全員合格すれば「4」	-			3
家庭科	家庭生活を営むために必要な能力を身につける。	生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。	保育実習の実践	乳幼児ふれあい体感を通して、男女協力して家庭や地域の生活を創造するための知識と技術を習得させる。効果的な指導・体験実習ができれば「3」、感想や事後アンケート等から生徒の3分の2以上が保育への意欲・関心が高まったと判断できた場合は「4」	-	-	B	①コロナ感染防止のため中止 ②被服実習では、基礎縫いとミシン縫いを一人ひとりしっかりと取り組ませることができた。前期では、巾着と刺繍、じんべいのパンツの3つの作品の製作を行った。引き続き2学期も技術の向上と作品の完成を目指す。 ③前期では6回の調理実習・実験を実施できた。調理技術の習得だけでなく、地域の食材を利用した商品開発の実習(試作)を通して、生徒の創造力を育むことができた。今後も生徒の調理の技術と知識の向上を目指していく。
			実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実	文化祭での作品展示を目標に作品製作を行う。最後まで作品を3つ完成させることができれば「3」、4つ以上完成させることができれば「4」	3	3		
			調理の工夫と実践	調理実習では年間10回以上を目標とする。安全に配慮し、効果的な調理実習が10回以上できれば「3」、調理実験も含めて15回以上できれば「4」	3	3		

④ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	生徒指導部	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	高校生さわやか運動（服装）を推進する。	指導されなくても自ら整える雰囲気や姿勢を養う。毎回の服装頭髪検査で90%以上が合格なら「3」、95%以上が合格ならば「4」	3	3	B	<p>①服装頭髪検査については年間を通して100%ではなかったが、高い合格率を保つことができた。5分前行動もよく守ることができている。</p> <p>②今年度から年間を通し風紀委員を中心にあいさつ運動、各クラスでの服装頭髪検査を実施できた。</p> <p>③昨年度は自主的に校門・体育館周辺を掃除する生徒の姿も見られたが、今年度は見受けられなかった。</p>
				高校生さわやか運動（挨拶）を推進する。	風紀委員を中心に挨拶運動を実施。月に1回実施すれば「3」、生徒会役員も合同で実施できれば「4」	3	3		
				時間の厳守	指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各授業・行事、5分前行動ができれば「3」、毎月の遅刻者数が全体の10%以下であれば「4」	3	4		
	交通マナーの遵守を徹底させる。	自転車乗車マナーの向上	自転車整備の徹底	整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が80%以上で「3」、95%以上が合格ならば「4」	3	3	B	<p>①駐輪場の使い方は年間を通してよかったため、点検を毎月行う必要性を感じなかった。</p> <p>②自転車の危険な乗り方については、集会等で定期的に話をして注意を促すと共に自転車駐輪マナーについて注意を促すポスターの作成・掲示にも取り組んだ。今後は、報告があり次第、その度繰り返し指導していく。</p>	
			自転車乗車マナーを指導する。	夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」、定期的の下校時の確認ができれば「4」	3	3			
			駐輪場の整理整頓	全車、駐輪場の車止めに停車させる。毎月の駐輪場点検・清掃が実施できれば「3」、定期的に保健美化委員が各クラスでの実施状況説明ができれば「4」	3	3			
	第1学年	基本的な生活習慣を身につける。	基本的な生活習慣を定着させ、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自立の精神を養う。	校則に準ずる容儀を徹底させる。	年3回行われる服装頭髪検査において、平均80%の生徒が合格すれば「3」、平均90%の生徒が合格すれば「4」	3	4	B	<p>①検査時は問題ないが、平常時についての指導の徹底が必要である。</p> <p>②職務は果たせたが、ただこなすだけでなく、自ら提案や工夫をして、より良い活動をしようとする意識を養いたい。なお、役職を経験したのは述べ9人であった。</p> <p>③80%の生徒が無欠席である。引き続き体調管理の徹底を呼びかけていきたい。</p>
				学校活動に積極的に関わる。	全員が専門委員となり、日常生活の係運営が滞りなく行われていれば「3」、専門委員会において50%の生徒が副委員長か書記を経験すれば「4」	3	3		
				毎日登校する。	月間出席率90%以上の生徒がクラスの80%であれば「3」、90%であれば「4」	4	4		
	学ぶ楽しさを経験し、	生徒自ら学ぶ姿勢を身につける環境を教員が作り、	教室の保全・環境美化を行う。	生徒が率先して清掃活動に参加すれば「3」、教員も生徒と共に清掃に参加し、学校環境の美化につとめれば「4」	4	4		①できていたが、清掃区域への移動に時間がかかることへの指導は必要である。	

	教師・生徒間の信頼関係を築き上げる。	落ち着いたあたる誠実な学習・生活態度を確立させる。	生徒の向学心に 応える教員の姿勢を徹底する。	生徒の質問に丁寧に対応し、問題の解決につなげることができれば「3」、生徒一人一人に応じた学習方法の助言や課題の設定等ができれば「4」	3	3	B	② 調査前の質問は増えたが、それ以外はほとんどない。質問へ行くよう促すだけでなく、生徒が質問に行く時間を確保できるよう、NIEや係活動等の負担を減らしていく必要がある。 ③ 学級通信やLHRで書籍の紹介をすることができた。読む本の質を高めさせる指導もしていきたい。	
			NIE・朝読の実施を徹底する。	NIE活動を予定通り実施し、ブックトーク等の読書推進活動が学期毎に1回できれば「3」、読書推進活動が学期毎に2回できれば「4」	3	3			
第2学年	中堅学年としての自覚を持たせ、学校生活を再構築させる。	基本的な生活習慣を見直し、生活の質を高め、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自立の精神を養う。	毎日登校	出席率が90%以上あれば「3」、出席率が95%以上あれば「4」	4	4	A	① 10月に体調不良による欠席があったものの、基本的には全員毎日登校することができている。 ② 70周年記念式典・西高祭・生徒会活動では先生方の的確なサポートもあり、2学年が中心となって実施・活動することができた。	
			学校活動・行事へ積極的に参加させる。	各種委員会活動や西高祭・体育祭などへ積極的に参加するよう、SHR等で指導をする。全員が前期・後期の委員となり、かつ日常生活の係運営が滞りなく行うことができれば「3」、生徒が主体的・意欲的に活動していれば「4」	4	4			
第3学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	基本的な生活習慣を確立させ、社会に適応できる人間を育成する。	自己管理能力の育成	出席率が95%以上であれば「3」、99%以上であれば「4」	4	4	B	① 出席率は12月現在で99.1%である。 ② 検査の前は散髪に行くなど、各自意識を高めて実施ができている。 ③ 体育祭などの行事を通して、下級生に分かりやすい説明の工夫を行ったり、リーダーシップを発揮して下級生を引っ張る姿が多くの子に見られた。	
			挨拶の励行と徹底した容儀指導の実施	日常的な場面において80%以上の生徒が自ら挨拶をし、かつ、服装頭髪検査で90%以上の生徒が合格すれば「3」、95%以上の生徒が挨拶・容儀ともに合格であれば「4」	4	3			
			リーダーシップの促進	学校行事や委員会活動へ積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと教員の8割以上が判断すれば「3」、9割以上が判断すれば「4」	4	4			
	進路意識の向上・進路実現	将来の職業意識を持たせ、	進路講演会の実施	専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施できれば「3」、さらに生徒の満足度が高ければ「4」	-	4		① 進路講演会については、どの学年についても生徒たちの将来に役に立つものが多く、満足度が高かった。	

⑤ 進路指導の充実	進路指導部	生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。	進路検討会の実施	学年と協議して進路検討会・学力検討会を円滑に実施できれば「3」、検討会の結果をもとに一人ひとりに適切な進路指導ができれば「4」	-	3	B	②進路検討会については、一人ひとりの生徒に対して丁寧な検討ができ、進路指導に活かすことができました。 ③今年度については感染症流行のためにインターシップを実施できなかった。	
			インターシップの実施	積極的にインターシップに参加させ社会性や職業観を養うことができれば「3」、さらに生徒の満足度が高ければ「4」	-	—			
	第2学年	自己認識を深めさせ、進路達成に向けての取組を充実させる。	進路指導や個別面談を充実させ、生徒個人の進路意識を高める。	個人面談を充実させる。	個人面談を各月に1回実施。予定通り実施できれば「3」、さらに自主的に進路情報を収集する態度を深める面談ができれば「4」	3	4	A	①個人面談は予定通り実施できた。個人でばらつきはあるものの進路に真剣に向き合って情報収集を行っている。今後は主体性を尊重しながら、適宜助言などサポートを行っていく。 ②総合的な探究の時間では1学期に調査した内容を英語でプレゼンテーションする所まで行った。今後は卒業レポートに向けてテーマ設定を実施する。
			総合的な探究の時間を充実させ、ふるさと小値賀に貢献しようとする態度を養う。	総合的な探究の時間を通して進路意識を高め、将来小値賀にどのような形で貢献できるか考える。予定通り実施できれば「3」、さらに小値賀に貢献しようとする態度を養うことができれば「4」	4	4			
	第3学年	学力の充実と進路指導の徹底	進路目標を明確にさせ、学力向上と学校生活の充実を図る。	個人面談の充実	個人面談を各学期に2回、三者面談を1年間に2回実施する。予定通り実施できれば「3」、それ以上実施できれば「4」	3	4	B	①担任2人態勢で三者面談を年間3回実施した。個人面談も適宜実施し、場面によっては副担任の先生にも面談に関わってもらい、一人ひとりの進路に向き合うことができた。 ②学年会を定期的にも実施することができた。生徒情報に関しては日頃から情報共有し、特に不登校の生徒に関しては学年全員で対応することができた。 ③面接初期指導を全員に行い、集団討論も夏季学習会を利用して主にβで実施することができた。試験に必要な生徒には、学年で主担当を分担し、何度も個別指導を行った。学年全員でも指導を行い、指導方法の共有や生徒の情報共有ができた。
				情報共有の実施	月に3回学年会を行い、生徒情報の共有を行う。予定通り実施できれば「3」、それ以上実施できれば「4」	3	3		
面接指導の充実				必要な生徒に対し、面接や集団討議の個別指導を生徒1人につき5回行うことができれば「3」、それ以上であれば「4」	-	4			

⑥ 小中高 一貫教育の 充実	教務部	小中高一貫教育の内容検証と改善	小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。	小中高一貫教育に関する会議日を設定し、校種間の調整を図る。	毎月1度「小中高教務部会」を設定でき、各々の行事等が円滑に行えれば「3」、1ヶ月前までに提示できれば「4」	4	4	A	①毎月小中高教務主任会を行い、行事の調整・確認を行った。日頃から、メールでの確認を行うことで、すり合わせがうまくいっている。
				オープンスクールや入試説明会を実施する。	中学生・教員・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」、アンケートの結果、参加者の満足度が80%以上で「4」	-	4		②オープンスクールも生徒や生徒会指導部などの協力を得て、外部からの反応もよかった。あとは、生徒募集につながるように努力していきたい。
地歴科	小中高一貫教育における社会科・地歴科の連携を深める。	公開授業・研究授業等を通じて、小学校・中学校・高校の実態を把握し、小中高一貫教育における社会科・地歴科のあり方について協議する。	公開授業・研究授業を実施し、授業研究を行う中で課題を見つける。	公開授業・研究授業を実施し、授業研究を行う中で課題を見つける。	公開・研究授業と授業研究を実施。予定通り2回実施できれば「3」、3回実施できれば「4」	-	3	B	①小中校一貫関係の行事・活動が少なく、今年度は高校の乗り入れで授業見学を実施した。
			小中学校の社会科の授業を見学し、実態を把握する。	小・中学校の授業見学に2回以上行くことができれば「3」、3回以上できれば「4」	-	3	②生活・社会科部会の活動として、代表授業の事前打ち合わせ、授業研究を行った。2月に高校で研究授業を実施する予定である。		
公民科	知識の定着と公民的資質の育成	現代社会と人間について理解を深め、社会の基本的な問題・人間としてのあり方について考察し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	現代社会の問題に関するレポート・作文の作成	現代社会の問題に関するレポート・作文の作成	レポート・作文の課題を1回実施することができれば「3」、2回実施することができれば「4」	-	4	A	①夏季課題に「税に関する作文」と「東南アジア小論文コンクール」を実施した。
			時事ニュースを主題にした授業を実施する。	各学期1回は実施することができれば「3」、3回以上実施することができれば「4」	4	4	②時事ニュースに関しては、2年で核兵器禁止条約の発効、定額給付金、GoToトラベル、消費税増税を取り上げた。		
理科	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し改善に努める。	小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を推進する。	小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。	小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。	小中高12年間の理科教育における達成度目標を作成し、情報を共有する。リストが作成できたら「3」、さらにそのリストを用いた授業を実施できたら「4」	2	3	B	①指導内容の系統表を作成し、校種を交えた研究授業の実施によって他校種の理科教育の現状を知ることができた。今年度は小中での校種連携であったため、高校がどのように関わっていくのが今後の課題となる。
			公開授業の実施	小中高の教員で授業内容の協議を行い、公開（研究）授業後に授業研究を行う。1人が公開（研究）授業を実施したら「3」、2人とも公開（研究）授業を実施したら「4」	-	4	②2名とも研究授業を行うことができた。		

家庭科	郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる。	保護者との連携を深め、郷土について学習する機会を作ることにより、郷土についての知識と愛着を深める。	地場産物を使った調理実習を行う。	調理実習のうち3分の2以上で、小値賀産の食材を2種類以上使用できたら「3」、全ての調理実習で小値賀の食材を1種類以上使用できたら「4」	4	3	B	<p>①調理実習の3分の2以上で、地元産の食材を1種類以上使用した。その際、食材に関する紹介や説明等を行い、興味関心を高めるよう努めた。</p> <p>②アイランドチャレンジにおける生徒の活動の記録や感想等から、創造力や情報収集力の向上がみられた。課題として、生徒の主体性をさらに引き出すために、地域の方々の協力を得ながら指導の工夫を行っていききたい。</p> <p>③郷土料理教室はコロナウイルス感染症対策により中止。</p>
			地域との交流を通して、小値賀の食品を使った商品を開発する。	地域との連携を通して年に1つ以上小値賀の食品を使った商品を開発できたら「3」、さらに月1回以上地域との交流ができれば「4」	3	3		
			郷土料理教室の実施	地場産物を用いて、郷土料理を完成させることができたなら「3」、郷土料理教室後の事後アンケートで、3分の2以上の生徒が郷土に対する愛着を深めることができていたら「4」	-	-		
小中高間での連携の活発化	共同の授業研究を行い、小中高の連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。	共同の授業研究	1時間以上の授業研究会を年2回開催することができたら「3」、2回以上開催できたら「4」	3	4	B	<p>①授業研究会や研修を通して、異なる校種・教科の先生方の授業を参観することができた。ここで得た学びを今後にかかしていく。</p> <p>②研修を通して、体育や地歴との教科横断型授業を行うことができた。また、社会的な問題を取り上げ、問題意識を持たせる授業作りを行うことができた。しかし、最終的に本当の意味で生徒自身の問題になり得ていない。そのため、問題を生徒自身のものにしていくプロセスをとりいれた授業案の作成と実践を今後の課題とする。</p>	
		教材・授業案の蓄積、共有化	年間を通して、新たに試みられた授業内容の授業案化、データ化、教材の蓄積ができたなら「3」、ICT器機を用いた授業案を3つ以上考案し、蓄積できたら「4」	3	3			

⑦ その他	生徒指導部	学校、保護者、地域社会との連携	保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	保護者・地域との連携	情報を共有し、生徒の健全育成に努める。生活補導会議を年に1回実施し、決定事項を確実に伝達できれば「3」、さらに学校評価アンケートにおいて、No9【教師は、生徒をよく理解し適切に指導している】の項目評価が3.5以上であれば「4」	3	3	C	<p>①携帯電話やインターネットの使い方について、合格者説明会・育友会総会・長期休暇前の全校集会で注意・指導の場を設けた。生徒の携帯電話所持率は100%ではないが、外部機関や地域の方との連携も強めていく必要があると考える。また、男女交際を含む男女間の意識の違いについての対策を学校・家庭を中心に情報を共有する必要があると考える。</p> <p>②今年度も様々な事案が発生したが、すべてにおいて初期対応に問題が重要であると思われる。今後もいろいろな事案が発生する可能性があるため、今まで以上に報告・連絡・相談を徹底するシステムが必要である。</p>
			職員間の連携	問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」、解決することができれば「4」	3	2			
			携帯電話・インターネット利用の危険性の啓発	携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」、複数回実施できれば「4」	3	3			
生徒会指導部	生徒の自治的活動の活性化	活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	学校行事への積極的参加	各行事で生徒が主体的に企画・運営に関われるよう生徒会の活動を支援できれば「3」、学校評価アンケートで「学校行事に積極的に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点が3.6以上ならば「4」	3	3	B	<p>①学校評価アンケートで、「学校行事に積極的に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点が3.6であった。次年度も、各行事を通して活気ある学校作りに努めていきたい。</p> <p>②各種専門委員会の在り方や仕事内容について検討した。次年度も各委員会で工夫しながら活動を進めていきたい。</p>	
			各専門委員会活動の活性化	各委員会で努力目標を設定しそれを達成するため、各種専門委員会を予定どおり実施できれば「3」、問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養うことができれば「4」	3	4			
		部活動の充実のための支援	部活動への全員加入。心身共に成長できるよう支援する。	部活動への全員加入。心身共に成長できるよう支援する。	全校生徒が部活動に所属すれば「3」、学校評価アンケートで、「部活動に意識を持って活発に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点が3.8以上ならば「4」	3	4	B	①学校評価アンケートで、「部活動に意識を持って活発に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点は4.0であった。次年度も全員部活動加入を目指し、生徒の成長の場としたい。

			部活動規定改正の検討	部活動運営の円滑化・活性化につながる既定改正の検討ができれば「3」、規定改正ができれば「4」	3	3	②既定に関しては、部活動運営の円滑化・活性化のために次年度以降も必要に応じて議論・検討が必要である。
保健部 / 特別支援	小値賀町特別支援教育連携協議会実務者会の充実	連携協議会実務者会において小中と連携を取り、生徒の実態把握と対応策を検討する。	地区の連携協議会実務者会での情報共有と連携の充実	地区の連携協議会へ参加し、情報共有と特別支援教育に関する研修会の企画・運営に参加する。実務者会において情報共有ができれば「3」、さらに研修会の運営に関われば「4」	3	2	C 今年度の連携協議会は4回の予定であったが、コロナ感染拡大防止の影響で2度しか実施できなかった。研修会も実施できなかったが、「特別支援だより」は、主担当の先生のおかげで発行できて良かった。